**下町そぞろ歩き**

**●横丁散策**

横丁とは、表通りから脇に入った道のことを言います。

建物, 屋外, 座る, ストリート が含まれている画像

AI によって生成されたコンテンツは間違っている可能性があります。“兵庫横丁”は、石畳の路地に老舗の料亭でまちなみ景観賞も受賞している横丁です。戦国時代に武器商人が住み、武器を入れておく倉庫（兵庫）があったことが名称の由来です。横丁内のレトロな雰囲気の旅館では、有名な作家や脚本家、映画監督などが滞在し、作品を執筆したことが知られています。

“かくれんぼ横丁”は、「お忍びで遊びに来た人の後を付けても、一つ路地に入られるとわからなくなる」ところから名づけられたと言われています。石畳の路地に昔ながらの美しい黒板塀が続き、1本横道に入れば花街の風情がしのばれる芸者新道に通じます。

“見番横丁”は、2011年12月に新宿区が制定した100メートルの通りの名称です。芸者衆の手配や稽古を行う見番が沿道にあることから名付けられたそうです。稽古場からは時々三味線の音が聞こえてくるそうです。

“本田横丁”は、旗本の本多対馬守の屋敷があったことに由来するそうです。飲食店を中心に50軒以上の店舗が並ぶ横丁で、ビルの間に古い木造の店舗や旧料亭の建物も残っています。

**●石畳の小道**

路地裏に残る石畳は歴史を感じさせ、街のシンボルともなっています。石を畳のように一面に敷き詰めるので石畳といいます。石畳に用いている石はサイコロ状になっているのが一般的で、上からみて正方形に見えるように敷き詰められているそう。なぜ石畳を用いたかというと、土などがむき出しの状態では雨が降るとぬかるんでしまい、歩行者も車も泥で足が取られたり、車輪が泥の中に沈み込んでしまったりしますが、石を敷き詰めることで、ぬかるみを防ぐことができるようになるというわけです。石畳の長所の１つは、石と石の間から雨水が地面に吸い込まれてゆくので、水があふれて洪水のようになったり、下水管に雨水が集中してしまったりしないことです。

**●善国寺**

屋内, 座る, 小さい, おもちゃ が含まれている画像

AI によって生成されたコンテンツは間違っている可能性があります。「毘沙門天(びしゃもんてん)　善國寺(ぜんこくじ)」。1595年に創建された日蓮宗という宗派の仏教寺院で、見どころは本堂です。 重厚な造りの本堂は、江戸時代初期に建てられたもので、国の重要文化財にも指定されています。 ご本尊である毘沙門天はインド由来の神様で、日本では財福にご利益があるとして信仰されています。都内有数の金運のパワースポットとして人気で、毎日多くの人で賑わいます。

**●江戸城外堀**

江戸時代、三代将軍徳川家光の命で造られ、現在は牛込見付から赤坂見附の間が国指定史跡となっています。春は桜、秋は紅葉を堪能でき、野鳥や魚も生息しています。周辺には牛込見付、神楽河岸、揚場町など、歴史を感じさせる地名も残っています。江戸城外堀は、江戸城を取り巻いていた外側のお堀です。内堀を囲んで、渦巻き状に「の」の字を描いて江戸の町をめぐっていました。現在、北は中央・総武線のラインに沿って、南は地下鉄銀座線の虎ノ門駅付近まで。東西は東京駅の少し東から四ツ谷駅までが円を描いている部分で、さらに、隅田川に流れ込む総武線の浅草橋駅付近まで、全長15キロに及んでいます。



[この写真](https://kf-planning.blogspot.com/2014/10/blog-post_13.html) の作成者 不明な作成者 は [CC BY-SA-NC](https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/3.0/) のライセンスを許諾されています

**●東京大神宮**

縁結びの神社として知られている東京大神宮は、明治13年に伊勢神宮の東京遙拝殿として創建された神社です。「天照皇大神」(あまてらすおおみかみ)をはじめとする神々を祀っています。最初は日比谷にあったことから、日比谷大神宮と呼ばれていましたが、関東大震災後の昭和3年に現在の飯田橋に映ってからは、飯田橋大神宮と呼ばれ、戦後、東京大神宮に改められました。女性の縁結びの神社として東京一有名な神社で、良縁を求めて全国から若い女性が訪れています。また、境内にある飯富稲荷神社は、衣食住の神、商売繁盛・家業繁栄の神として広く崇敬されています。歌舞伎役者の9代目市川團十郎さんが篤い信仰を寄せた「芸能の神」でもあります

**●AKOMEYA TOKYO in la kagu**

新潮社の倉庫をリノベーションした特徴的な造りの商業施設です。木製の階段が印象的で、設計は建築家 隈研吾氏によるものです。1階はこだわりのお米や全国各地の食材を取り扱う「AKOMEYA　TOKYO」の旗艦店。四季の食材を使った料理を堪能できる「AKOMEYA食堂」やお茶を使ったドリンクや軽食を味わえる「AKOMEYA茶屋」も併設されています。神楽坂の中でも圧倒的な存在感があって、洗練された建築は一見の価値ありです。

**●赤城神社**

鎌倉時代に創建されたといわれていて、磐筒雄命（いわつつおのみこと）と赤城姫命（あかぎひめのみこと）が祀られています。  
2010年に完成したリニューアルプロジェクトで、境内にはカフェやマルシェが併設しており、地域交流の拠点として、神楽坂になくてはならないスポットになっています。新国立競技場を設計した建築家の隈研吾氏がデザインを監修していて、全面ガラス張りのモダンな建物はグッドデザイン賞を受賞しています。

**●近代科学資料館**

東京理科大学の前身、東京物理学校の木造校舎を復元。明治時代の建築物の美しさが伝わってきます。資料館の中には、昔のそろばん、手動計算機などの歴史資料やエジソンの発明品などが展示されています。